北海道医歌人会詠草

残雪

江別　三宅　浩次

それぞれに過去存在すもろもろを隠すごとくに残り雪降る
ひと冬の汚れを隠す残雪に露はれ出づる時間とは何
庭の隅潜み残りし雪ひとつ水少しづつ流れ出でくる
思いきりコートを脱ぎて呼吸する春とはいへどまだ寒さ染む
余市岳に白だけ残す山稜に緑は萌えず春の過ぎ行く

市町村合併

札幌　山口　康徳

危険なる柵をばまたぎ像触るは勇名馳せしえらき人なり
生活の基盤失へる人々に神々こぞりワークシェアリング
市町村合併進み政令都市ふえつづけたり十八市とは
南総に艦船当り沈みたる漁船の事故は早や一年となる
斯かる時世にベースアップを突きつくる人の頭脳は如何なるものや

寝言

札幌　小国　孝徳

妻の寝言に答へるべきか無視すべきかうつらうつらと春暁の床
学会の役員として吾が住きし長崎のチームが勝ちにけらずや
何といふ他愛なき野球をするものかグランドの草がけば立ってゐる
胃も歯もない吾に料理の持ち帰り認めぬといふなら「欠席致す」
痛高く早口に喚くアナウンサー夜深沈と更けゆくものを

舎利の壷

札幌　古屋　統

髙島屋伊勢丹大丸死斗の場地域の老舗呑込まれゆく
百貨店生残る世ではないと言い老舗マルイさん再建ならず
マルイさんむかし夢ありき猿の家カンガルーの庭川獺の池
慈悲湧けば事業瀕死のデパートに我らが入らむ舎利の壷見る
賣子らは紋切り型に押付けて古き顧客の思ひを酌まず

修了式（美唄聖華高校）

美唄　吉村　誠治

今日ここに皆勤賞受くる七人の一人一人に生気満ちたり
五年の日々を欠かさず学びたる君らと御両親に拍手を送る
実習に来り親しみし顔のあり今日の卒業を喜ぶ我も
思はざる「仰げば尊し」三番まで静かに流れ胸熱くなる
道外の名のある病院次々と名簿にありて四割を占む

オナモミ

札幌　浜島　泉

鉢植えの土に密みしオナモミが春の光に珠の実結ぶ
この町に勤務するとふ学友をスキー大会名簿に探す
金運の心当たりはなけれども紛れてをりし鍵を見出す
雪溜めを越ゆる足跡飼ひ犬と異なる形キタキツネにや
ロぐせのごとく主治医をののしりし可愛いげの人雪どけを見ず

送る言葉

釧路　児玉　昌彦

「思い出をありがとう」の文字廃校の小学校を抱くごとくに
八歳も年上となるクラシックカーホテルロビーに輝きてあり
生きがたく自死想ひたる若き日の曲りくねりし長き道のり
歩み来し林道のゲート音たてて閉まれる気配友の訃報に
ヒマラヤの峰も越ゆべし新しき風に乗りたる鶴の旅立ち

我が音楽遍歴

栗山　高田　剛太

十四オバイト先でのラジオからドアーズ流れ我を貫く
「胸いっぱいの愛を」初めて聴きし夜の少年の胸に波はざわめく
クリーデンス・クリアウォーター・リバイバル、サンタナ、ジャニスああ我が青春
二十才にてクラシックでも聴こうかと購入せしはヴィヴァルディ「四季」
エレキギター、サックス、ウクレレ、トランペット買ひて間もなく押入れの中

捨て猫

旭川　稲積　文子

捨てられて寒さに手足強直しふるへる仔猫の命いとしむ
ぬくもりて元気になりしか起き出でて自分のトイレで用を足す猫
マンホールの中ゆ拾ひし故に真夜中なれど猫洗ひする
人間と共に過ごして一年余何を思ふや窓際の猫
人間に飼はれる運命を知るかとも敏感に吾れの心うかがふ